徳吉秀雄略年譜

1921年（大正10年）	10月25日	出生
1934年（昭和9年）	4月	鳥取県立倉吉中学校入学
		※絵画部に籍を置き、中井金三の思想に傾倒する
1939年（昭和14年）	3月6日	同校卒業
	4月	京都高等工芸学校（現京都工芸繊維大学）建築図案科入学
		京都市左京区下鴨川町に住む。
		夜間、美術研究所に通い裸婦デッサンの勉強をする。
1941年（昭和16年）	12月27日	同校卒業
1942年（昭和17年）	1月10日	鉄道本省施設局建築課に就職。
		東京都大森区（現東京都大田区）馬込に住む
1943年（昭和18年）	1月10日	教育召集により同課を休職
	4月20日	充員召集により、海軍陸戦隊員として上海に配属される。
		海軍予備学生に志願、合格し土浦航空隊を経、大井練習航空隊に転勤、後に鹿屋、鹿児島、大分、戸次にも転勤。少尉から中尉に昇任。
1945年（昭和20年）	8月30日	一時復員するが、残務整備のため戸次基地に11月20日まで滞在
1946年（昭和21年）	2月5日	萬井千重子と結婚。
	5月10日	鉄道省を依願退職
		◎青年団活動をとおし、戦争で荒廃した子供たちのために道具を作ってやる。又影絵芝居の劇団をつくり上演。
	7.7～11	東伯文化協会主催「前田寛治遺作展」にあたり尽力する（倉吉女学校にて）
	9月	「意匠」第1号発刊。私家版とし、長谷川富三郎、吉田たすくらの協力を得る。
	12月7日	「意匠」第2号刊行　上神焼特集号
		東伯文庫に勤める。
1947年（昭和22年）		「意匠」第3号刊行
	8月	長谷川富三郎の招請で来倉した棟方志功らを自宅に招き座談会を持つ。
		構図荘（謄写版印刷）を山崎孝昌、宍戸包義らと自宅で開業
	10月25日	「砂丘」復刊第1号　前田寛治特集号の表紙デザインを担当、また「前寛展追想」を掲載。
1948年（昭和23年）	3月	「意匠」第4号刊行。棟方志功より版画「仏女歓喜頌」と「天井筒茶碗」文章の寄稿がある
	6月29日	長女洋子出生。
1949年（昭和24年）	3月	「砂丘」復刊第2号を編集「意匠人の立場」を掲載。
	3月31日	倉吉町立（現市立）倉吉東中学校に図画科教諭として就職。
		第1回倉吉美術展覧会に出品、以後亡くなるまで出品を続ける
1950年（昭和25年）	2月27日	長男雅人出生。
		倉吉美術協会設立に際し、洋画の委員として参加

1951年（昭和26年）	6.3～4	小磯良平図工実技講習会（倉東中にて）鳥取県中部美育連盟主催、倉吉美術協会後援
	※	日本水彩画会展に出品。
	※	日本版画院展に出品
1955年（昭和30年）	3月	倉吉文化財協会設立会員となる。
1956年（昭和31年）		日本海新聞連載小説「十萬寺党始末」草上渉（吉田正）の挿絵を担当、孔版によって翌32年1月まで368回
1957年（昭和32年）	1月	随筆「彩雲」刊行（サン文庫）
	4月1日	市立倉吉西中学校転勤。
	7月	「倉吉市の文化財を尋ねて」を松本達之と共に制作。（昭和30年9月第1次試案、30年11月第1次改訂）
	11.12～17	第9回日本版画院展　恩地賞を受ける。
1958年(昭和33年)	4.18～20	倉吉美術協会展「みずうみ1」「みずうみ2」「花ことば」倉吉市庁舎市民ホール。 日本水彩画会山陰四部小椋繁治、増田英一らと設立。
	9月21日	泊海岸にて写生中転落死する。
	9.30～10.5	第10回日本版画院展、孔版「月夜笛」を遺作出品、会友を追贈される。
	11.7～10	徳吉英雄遺作展、遺作51点と友人の協賛作品30点
1959年(昭和34年)	2.24～8.1	徳吉先生遺作展、鳥取大丸にて
	9月24日	「遺稿ふるさとの美」徳吉英雄著、徳吉千重子編、刊行。
	10.22～26	「文化財写真展ふるさとの美」倉吉文化財協会主催。 （昭和30年8月～34年10月にかけて、徳吉、高木啓太郎、松本達之らが撮影）
1978年（昭和53年）	9.3～24	郷土作家シリーズ No.4　中井金三と郷土美術の流れ、「松のある風景」「りんごのある静物」「機（赤い布）」出品。